

# 第61回日本学連総会 議事録

開催日時：2014年(平成26年)10月11日(土) 16時06分～18時46分

開催会場：トリムパークかなづ多目的体育館内会議室(福井県あわら市)

## 【議題】

1. 議長選出
2. 昨年度決算報告、今年度中間報告
3. 春インカレについての報告
4. 関西学連セレ規約改定について
5. 大学院生の学連登録に関する規約の改定について
6. 理事会報告
7. 技術委員会報告
8. 各部局報告
9. 地区学連報告
10. 次回総会について

## 【出席者】(敬称略)

氏名	役職	学校名
河合利幸	会長	大阪大学卒
山川克則	副会長	東京大学卒
木村佳司	理事(JOA理事兼務)	山口大学卒
大西康平	技術委員会委員長	京都大学卒
宇井賢	幹事長	京都大学
佐藤大樹	副幹事長	東京工業大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
新粥文哉	事務局長	千葉大学
杉村俊輔	普及部長(渉外部長代理)	東北大学
大久保宗典	会計	東京大学
山田陽子	2013年度会計	早稲田大学
野本圭介	会計監査	筑波大学
五味あずさ	会計監査	金沢大学
大川拓哉	北東学連幹事長	東北大学
久須美裕	北信越学連幹事長	新潟大学
戸上直哉	関東学連幹事長代理	東京工業大学
今井祐太	東海学連幹事長	名古屋大学
糸井川壮大	関西学連幹事長	京都大学

## 【出席校】(31・加盟校のみ)

北海道、岩手、岩手県立、東北、宮城学院女子、福島、金沢、新潟、お茶の水女子、慶応義塾、相模女子、実践女子、十文字学園女子、千葉、筑波、津田塾、東京、東京工業、東京農工、日本女子、一橋、横浜市立、横浜国立、早稲田、静岡、椋山女学園、名古屋、大阪、京都、京都女子、奈良女子

## 【委任状】(1)

茨城

# 第61回日本学連総会 議事録

発言者(敬称略)		発言内容など
氏名	所属・役職	
		総会開始: 16時06分
		<b>1.議長選出</b> 今回の総会の議長に、田中 基成(筑波大)を全会一致で選出した。
		<b>2.昨年度決算報告、今年度中間報告</b>
		前年度会計の山田より、日本学連の昨年度決算と2011年度～2012年度会計の現状について報告があった。また、今年度会計の大久保より今年度会計の中間報告があった。
山田	前会計	【昨年度日本学連会計決算報告】 収入には、加盟金、賛助金、販売収入、事業収入と前年度払い込まれなかったお金がある。支出には、貸付金、部局活動費、幹事会役員活動費、事務局維持費と前年度の繰り越しとその他のお金がある。そして、現在の日本学連の総資産額は2624万3820円である。 →全会一致で承認された。
		【2011年度～2012年度の会計について】 小柳・2011年度～2012年度会計が決算報告をしないまま、音信不通となった。(日本学連の)通帳の明細を発行してもらい調べたところ、ATMから引き出された現金の総額は、2年で600万円に上るが、それが何に使われたのかわからない状態になっている。対策として、齋藤理事が元会計の実家に連絡を取り、それでも説明がなされない場合は法的手段に出ることも考えている。また、このようなことが再び起こらないように、昨年度分については、1つ1つの支出について、きちんと会計監査を行い、決算報告をした。
佐藤	副幹事長	この件については、活動報告書にも書かれている。参考にしてほしい。 おそらく、使途不明金が戻ってくることはないの、これを反省(材料)として、これから起こらないようにするのが、こちらの対策、日本学連幹事会で出された結論である。 (16時20分 河合 出席)
佐東	千葉大	(資料には)「法的手段に訴えることも考える」とあるが、これは返金を求めるための法的手段ということなのか。(それには)証拠がなければ厳しいと思う。
山田	前会計	とりあえず何かしらの説明が欲しいと考えているところだ。
佐藤	副幹事長	それは責任の追及になると思う。理事が動く。
山田	前会計	疑問に思うことをもうちょっと言った方がよいと思う。誰も何も言わなかったため、元会計が何もなくても2年間会計を務め、決算を出さなくても許されていたようなことは、渉外が何も突っ込まなかったこともある。(日本学連の会計について)自分のお金と同じような意識を持って考えてほしい。
大久保	会計	【今年度日本学連会計中間報告】 収入項目としては、加盟金、賛助金と昨年度の春インカレの貸付金と黒字、それに利息がある。支出項目には、資料のようなものがある。 補足をすると、今年度から加盟金は2000円となり、収入項目としての加盟金は、2000の倍数とまではずであるが、おそらく追加登録者がいるためだと思う。ただ、事務局との人数とすり合わせていないので正確にはわからない。 支出については、春インカレ実行委員会から貸付の申請があったが、実際の貸付は今後行われる予定である。また、ユニバーの補助については、今年度20万円の予算がついているが、昨年度も10万円の予算を付け、合わせて30万円を支出した。さらに、活動報告書作成費については、毎年25万円の予算をつけて、2年ごとに発行をしており、今年度がその発行年度であった。(※今回の総会で各加盟校に1部ずつ配布)「幹事会関係」の項目では幹事会の会場使用料などを、「YMOEとの清算」ではYMOE社との地図会計での黒字分をそれぞれ計上している。YMOE社との詳細な収支を決算報告で行うように会計監査から言われているので、来年の総会では、それが出せるようにしたい。まずは44万円のやり取りがあったということを報告しておく。
山川	副会長	その44万円という数字は、全然重要な数字ではない。昨年度の総会で報告したのだが、250万円の地図売り上げがあったということが一番大切な実績である。
佐藤	副幹事長	「学連合宿補助」はまだ支払っていないのか。
大西	技術	今年度の分はまだ何ももらってはいない。
大久保	会計	6月に頼まれていたが、まだ支払っていない。
		<b>3.春インカレについての報告</b>
		前回幹事会の時に連絡のあった「リレー一般クラス1走スタート形式の変更」と「リレー女子選手権」について、各大学から意見を集めた。前者では「第二チーム以降の並べ方」について、後者では「2走のコース距離や難易度」についてそれぞれ心配する声が出された。今回出された意見は、実行委員会に伝え、返答を待つこととなった。

また、インカレリレーにおける特例措置については、昨年度同様、選手の数が3名に満たない大学に限って認めることとして、実行委員会へ要望することとなった。

宇井 幹事長

正式な報告ではないが、連絡が来ている。今年度第2回幹事会議事録(9月開催)を見てほしい。  
○実行委員会から届いている報告

(1) リレー一般クラス1走スタート形式の変更

昨年度同様、前列に第一チームが整列。その後ろに第二チーム以降が自由に整列。

理由:チーム間の公平性を確保するため。

(2) リレー女子選手権

昨年は2走のみ短縮形式であったのを全走者同一距離とする。完走率への影響を鑑み、全体の距離は現状維持とする。(原案:40-40-40)

理由:運営負荷を低減するため。

宇井 幹事長

(1) リレー一般クラス1走スタート形式の変更

幹事会でこのことについて議論したところ、「第二チーム以降が自由に整列」という意味がよくわからないという声があった。そこで、幹事会の後に競技責任者に確認したところ、7人リレーのように、団子状になってスタートする方式を考えているとのことだった。

この場では皆さんの意見を聞いて、それを学生からの意見として実行委員会の方に伝えたい。

佐藤 副幹事長

昨年度は128チームが走ったが、第1チームが30チームあるとしても、100チームが自由に並びことになる。今のままだと100チームくらいが場所の奪い合いをすることになるので、第二チーム以降の並び方について意見のある人は言ったほうがよい。

栗本 東京

昨年度は学校コード順に横に並んでいたと思う。それを縦に並べれば、20列並べるのはきついかもかもしれないが、公平性はある程度保つことができ、並ばせるのに手間がそんなにかからないのではないだろうか。少なくともごっちゃにするよりは、整列に時間がかからない分、競技が円滑に進むと思う。

宇井 幹事長

(2) リレー女子選手権

昨年度まで2走を短くしていた理由は何か。

山崎 大阪大

3人でリレーを走ることになった時、男子より実力のある選手がそろえにくい。そのため経験の少ない人がエントリーしても、少しでもその選手への負担を軽くすることで、完走率を上げるために、2走を短くしていた。

山崎 大阪大

今年度は距離が同じになるということは、難易度も同じにするということか、

そういうことだと思う。運営負荷を減らすために、似たようなコンセプトで(コースを)つくるということだと思う。

佐藤 副幹事長

あと、最近では完走率が上がっているということも(理由の一つに)あると思う。

栗本 東京

幹事会の議事録を見ると、「2走を短くすることで、最後まで競った状態がつくられる」というような記述がある。「そういう目的のために2走のコース距離短縮を維持した方がよい」というのが幹事会の意見なのだろうか、それとも、「このまま2走は普通の距離にしよう」という方針なのだろうか。

佐藤 副幹事長

それはこの総会で話を聞いてみて決めたい。

大西 技術

完走率の問題が上がっているが、2008年の足柄インカレでは、リレー女子選手権の参加チーム数がすごく少なかった。その理由に3人をそろえられるチームが少なかったことがあったため、当時の技術委員長が、ウイニングの時間をインカレ実行委員会が自由に決められるように、規約改正をした。2走を短くして参加チーム数を増やし、レースを盛り上げていこうとしたのである。また、当時、1位から6位までのタイム差が非常に大きいという問題があったので、2走を短くすれば、全体のウイニングの時間が短くなり、最後まで競った状態のレースができるだろうというものもあった。

最近の傾向として、完走率は確かに上がっているが、実際の2走のタイムを見ると、50分くらいかかっているところがほとんどである。女子全体の選手層を見ると、参加チームは増えているが、2走は短くしてちょうど50分で走れる選手が多い。もしウイニングをすべて45分とした場合、昨年度まで2走を走っていた人は、60~70分くらいは超えてくると思う。「そのような形でもいいのか」という議論をしないといけないのだと思う。

宇井 幹事長

今の話を聞いてもらった通り、距離は同じでも2走にかかる時間が増えてしまうことが考えられる。2走で差が広がったり勝負の行方が左右されたりする可能性があるということだ。それについて、どう思うか。

佐藤 副幹事長

特に女子のいる大学からは意見を出してほしい。

岡野 十文字

私が1年生の時は(大学内で)選手権クラスを走れる人が少なく、私と同期と4年生でチームを組んだ。加盟校が増えたことで、4年生と1・2年生で組む大学が出てくる可能性があるため、難易度についてはもう少し考えた方がよいと思う。

宇井 幹事長

例えば2走を短くする、などか。

岡野 十文字

運営者の負担になるかもしれないが、難易度を同じにして走りきれずに自信をなくす人が出てくるのなら、距離は同じでも、難易度は考えた方がよいと思う。

田中 筑波

私の大学は、女子選手権にチームを出場させることになるが、もしそこで吹っ飛ぶとトラウマになりかねず、その後の競技で萎縮してしまう。現時点でしっかりしたチームを組める大学はほとんどないと思う。「無理にエリートを走るな」という意見があると思うが、4年生と1年生でチームを組まざるを得なくなった場合、4年生がエリートを走りたくても、1年生にはまだ実力がない。2走の距離を短くして、その対策をした方がよいと思う。

伊藤	東北	チームの状況によって、どのコースも等距離であってほしい年も、正直やさしめのコースを用意していただきたい年もある。ただ、長い目で見れば、運営側の負担にはなってしまうが、出来ればいつも通り、2走は少しやさしめのコースを作っていただきたい。女子部員の多い大学は少ないだろうし、その方が運営として進みやすいと思う。
宇井	幹事長	渉外のみなさんの一存になってしまい申し訳ないが、「全区間等距離にするのか」、それとも昨年度までのように「2走の距離を短くするのか」のどちらがよいか、意見を聞きたい。「女子選手権では全区間等距離にするのか、それとも昨年度までのように、2走の距離を短くするのか」
宇井	幹事長	→全区間統一距離：1、従来通り(2走のみ短縮距離)：30 それでは、こちらから実行委員会に対して、「難易度を下げるか、もしくは2走の距離を短くするのがよいのではないだろうか」ということを伝えておきたい。後日正式な返答が来ると思うので、その時には皆さんに周知したい。
宇井	幹事長	【インカレ特別措置について】 「特例措置」とは、選手の数3名に満たない大学に対し、他の大学との混成で選手権リレーへの出場を認める対応のことである。もし要望するならば、学連から実行委員会に要望して認めてもらわなくてはならない。 昨年度は、(総会で)話し合った結果、「エントリー数3人未満(加盟員数に拠らない)の大学のみ、特例措置として他大学との混成チームでの選手権リレーへの参加を認めてほしい」としてインカレ実行委員会に要望した。特例とは言っているが、1人～2人しかエントリーできず、選手権リレーを(単独で)走れない大学から、混成チームを組んで出場したいという意見があるので、ここ最近では毎年とられている措置である。今年度も必要があればインカレ実行委員会に要望しようと考えている。このことについて意見を募りたい。
佐藤	副幹事長	毎年議論になるのが、「エントリー数が3人未満」という部分である。加盟員数が3人以上いても、インカレに出場するのが3人未満の大学を含めるべきかどうかである。「加盟員がそろっているのなら、その大学で出せばよい」という意見もあると思う。
宇井	幹事長	特に選手権リレーでチームを出せそうにない大学から意見を出してほしい。「要望してほしい」という意見でもよい。特例措置が全く必要でなければ、特に要望は出さない。
片田	新潟	新潟大では(女子の加盟員数が)3人未満となると予想される。こちらとしては特例措置を行っていただきたい。
下江	広島	広島大には(男子が)3人在籍し、リレーにはぎりぎり出場できるが、けがや体調不良、家の用事などのために、出場できない可能性も無きにしも非ずなので、そういう措置がないと安心して出ることができない。
栗本	東京	東京大も女子の加盟員は4人いるが、持病などのためにインカレへのエントリー数が3人未満となることも大いに考えられる。特例措置を行ってほしい。
小泉	慶応義塾	今年、慶応義塾大には女子が1人、またKOLCには今年度フェリス女学院大から部員が入った。その部員にも選手権を走るチャンスを与えたいので、特例措置を行ってほしい。
宇井	幹事長	特例措置自体については必要だという意見があるので、要望することとしたい。特例措置の内容として、「(昨年度同様、加盟員数によらず)エントリー数が3人未満の大学のみ認める」という方式でよいか。その他の意見があれば教えてほしい。
佐藤	副幹事長	例えば、3人エントリーしたものの、そのうち1人がオリエンテーリングの経験がほとんどない場合、特例措置を認めるかどうか、という問題である。昨年度はそれを認めず、選手権を走るかどうかはその大学に任せた。
片田	新潟	そもそも特例措置は、エントリー数が3人未満で物理的にチームが出せない問題に対する措置と認識しているので、さらに条件を設けるのはよくないと思う。
田中	議長	それでは、昨年度と同じ文面で実行委員会へ要望を出してもよいかどうかについて、採決を取りたい→全会一致で可決された。
<b>4.関西学連セレ規約改定について</b>		
糸井川より、関西学連ミドルセレ規約の改定を行うことについて説明があった。特に異論は出されず、承認された。		
糸井川	関西	昨年度ミドルセレクション後、加盟員から、現在のミドルセレ推薦規約には不備があるのではないかという問題提起がなされ、規約改定について議論を行ってきた。 現行の制度では、推薦基準は「推薦対象者の中で相対的に速い人」というあいまいな表現となっていて、諮問委員任せの部分があった。問題提起をした加盟員からは、そこをもう少し具体的な表現にすべきという意見が出された。 そして今回セレ規約の改定を行うこととなり、関西学連内ではすでに承認が得られている。特に質問などがなければ、総会の承認をいただきたい。これを策定するにあたって、「セレクションの際、学連枠を獲得できる人に何かあった時に救済できるようなものを作ろう」と考えてつくられた。 →全会一致で承認された。 (17時08分 木村 出席)

		5.大学院生の学連登録に関する規約の改定について
		<p>佐藤・野本より、大学院生の加盟登録に関する幹事会での議論の経緯について説明があった。総会直前にとられたアンケートでは、大学院生の加盟登録を認めてもよいとする加盟校が多いことが分かった。しかし、加盟登録の対象の範囲や、インカレ出場時の在り方などについて議論しなければならぬことがいくつか見つかったため、それらについて各加盟校に持ち帰り、学内や総会で改めて議論することとなった。</p> <p>また、現在認められていない大学院生の加盟登録が発覚し、前例がないことなどを理由にそれが取り消され、インカレロングでの成績は参考記録として扱われることとなった。</p>
佐藤	副幹事長	<p>(総会開催前にこの議題の概要について)メーリングリストで1度知らせているので、各自、目を通して思う。</p> <p>加盟員となる資格を持つのは、原則として規約第7条に定められた「加盟校、準加盟校(以下、加盟校という)となる資格を有する、大学、短期大学、高等専門学校(4・5年生)(以下、大学等という)に正規生として学籍を有するもので、大学院学生、専攻科学生、あるいは聴講生、研究生などの非正規生を除く。」となっている。</p> <p>この中で大学院学生を正規生として加えてよいのではないかという議論になり、そこで皆さんにアンケートをとった。ほとんどの大学が賛成であり、その理由として、インカレ参加のチャンスについて挙げた大学がかなり多かった。「編入生がいて始められるチャンスが遅い」という意見もあった。一方、数は少なかったが、いろんな大学から反対の意見もあった。また質問もあった。(詳しくは資料参照のこと)</p> <p>まず、質問の内容について考えていきたい。大学院生になってから競技を始めた人や飛び級の人に学連加盟の資格を与えるかどうかである。もう一つあったのが、「たとえば東北大で2年からオリエンテーリングを始め、東大で大学院生になって地区学連配分枠をとった場合、それを関東に振り分けるのか」どうかについてである。</p>
野本	会計監査	<p>私が半分言いたしっぺのようなところがあるので、そもそもの発想について説明したい。高校生だった私がインカレに来たとき、当時の有力選手が、大学2、3年で競技を始めたために、大学院に進学したものの出場できなかったのを見て、「なぜ学生選手権なのに大学院生は出場できないのだろう」と思ったことがきっかけである。幹事会で加盟登録の話が出たので、このことについて話を出した。</p> <p>質問に関して、私が答えを決めることではないが、大学院生に加盟資格が与えられるのであれば、大学院生になってから競技を始めた人にも当然与えられるだろう。また、大学院進学で移った場合は学籍が変わっているのだから、変更するべきだろう。過去には大学を入りなおした人がいて、学連登録年数は上がっていったが大学名は変わっていたので、同様の取り扱いとなると思う。</p> <p>ただ、今、賛成か反対かどうかで分かれたが、賛成の場合でも、例えば、「所属を『筑波大学大学院』と『筑波大学』に分けるのか、それともどちらも『筑波大学』とするのかどうか」、そして「分かれた場合、インカレリレーはどうなるのか」、議論になり得ると思う。</p>
栗本	東京	<p>東京大では賛成とも反対とも言っていない。ただ、「加盟登録と一般の部の出場は認めるが、選手権の部への出場は、大学生の日本一を決めるためのものなので認めない」とした。</p>
佐藤	副幹事長	<p>これは反対の色が強いというだろうか。</p>
栗本	東京	<p>「今のままだと併設大会に出ることになるが、一般の部に出てもいいのではないだろうか」ということだ。選手権に出場することに関しては反対だが、加盟させることに関しては賛成するという立場である。</p>
佐藤	副幹事長	<p>それでは、これについて考えたい。そもそも、選手権クラスに出場できないというのでは、加盟する意味が薄い気がする。</p>
田中	筑波	<p>大学院生は選手権の部以外に出場させればよいという意見が出ているが、2年生で競技を始め、3・4年生でエリートとして活躍してきたのに、卒業して登録4年目で急に選手権の部に出られないとなると、たぶん納得できないところが出てくるだろうと思う。そうなるくらいなら大学院生を正加盟させた方がよいと思う。</p>
佐東	千葉	<p>東京大の出した意見にのっとった場合、実力のある人は加盟登録をせずに併設大会のMECなどへ出場すると思うので、中途半端な形にはしないほうがよいと思う。</p>
五味	会計監査	<p>私の大学では、かつて学連登録5年目で一般の部に出場した人がいた。参加規定(活動報告書290ページ)によれば、「選手権競技者は学連登録4年以内」としか書かれておらず、一般の部なら5年目でも参加できると思う。</p>
木村	理事	<p>今の意見に補足すると、20年くらい前に、5年生でインカレで優勝した人がいた。当時5年生までの参加を実行委員会が認めていたためであり、「選手権に出られないから」というわけではない。その人は留年していたのである。一般クラスについては規定がないので、実行委員会が決めている。以前は5年生まで出場ができたが、「5年生が優勝するのは納得がいかない」という学生からの強い要望があり、それ以後、参加資格を4年生までとした。</p>
山川	副会長	<p>(日本学連発足当初)歴史がないために優勝した5年生のインカレ参加を認めたが、その選手はインカレが2回目の出場で、留年生であった。インカレが始まって2・3年目までは5年生・6年生が堂々と出場していた。そして日本学連発足後4年が経過したところで、「選手権出場は4年まで」ということにした。</p>
河合	会長	<p>「大学院生を加盟員に加えるか、加えないか」という問題は、組織を変えるかどうかという大きな問題である。そういう点を踏まえて議論してほしい。</p>
佐藤	副幹事長	<p>「大学生だけでなく大学院生を含めて学連とするか否か」というのが論点であると思う。</p>

河合	会長	あとインカレの運営にも影響がある。現状、大学院生がスタートの運営を行うことが多い。
山川	副会長	自分たちの意見だけで議論するのではなく、「(他のスポーツ競技の学連では)どういうシステムになっているのか」など、ちゃんと勉強してみようか。例えば、箱根駅伝の予選には、毎年、筑波大学や東京大学の大学院生が出ている。
佐藤	副幹事長	今、この規約を通すかどうかによって影響のある学生が結構いるようだ。大学2年生から競技を始めた人がいろんな大学にいる。これが承認されると、来年も加盟登録をおこなってインカレに出場できる。
木村	理事	皆さんに考えていただきたいのは、「大学院生が(インカレで)金メダルをもらったとき、みなさんは心から拍手を送る用意があるのか」ということだ。
佐藤	副幹事長	反対意見の理由には、「大学院生が本当に学生チャンピオンと言えるのかどうか」という声や「途中から始めた人に合わせる必要があるのか」、「大学院生の出場には違和感があり、応援できない」という声があった。
山川	副会長	今のシステムとしては、2年生から登録していて、留年した学生は、加盟が認められるという理解でよいだろうか。
佐藤	副幹事長	今はそのようになっている。「そのようなシステムでよいのだろうか」というところから(この問題についての議論が)スタートしている。
大西	技術	「留年生の加盟が認められるのなら、大学院生の加盟も認めてよいのではないか」という発想だろうか。
佐藤	副幹事長	「登録年数が4年以内ならば、インカレへ出場してもよいのではないのか」という発想だ。
野本	会計監査	私がこの話題を持ちかけたもう一つの理由は、「いろいろな競技があるが、陸上競技では大学生と大学院生が同じ舞台上で戦っているの、個人競技であるオリエンテーリングでも導入してもよいのではないだろうか」ということだ。私が知っている限り、トライアスロン・エアロビクスなども大学院生の参加が可能である一方、テニスは参加できないようだ。また団体競技だと趣が変わり、リーグ3部以下なら可能であるなどの制限がある。
		また、「所属が大学になるのか、大学院になるのか」という話に関して言うと、以前、陸上で「筑波大学」と「筑波大学大学院」が同じ1部で争っていたところ、他大学の降格争いに影響したため、途中から大学院を別の部に分けたことがあった。あと、「大学院大学」というものも世の中には存在する。そこで競技を始めた人が加盟登録を行った時、リレーに出場すると、その所属は「～大学院大学」となり、話が複雑になる。それを考えたとき、個人での出場のみを認めるなど(の制限について)、加盟の是非についての議論の後に、話し合いの必要があると思う。
片田	新潟	ここでは大学院学生について話が出ているが、専攻科学生や研究生などについては議論に上がっていないのだろうか。
山崎	大阪	この議題については、今日採決するのだろうか、それとも持ち帰って次回総会で決めるのだろうか
佐藤	副幹事長	規約の改正には総会の承認が必要なので、できれば今日決めたい。
山崎	大阪	学校代表としては学内で決まったことを覆すことはできないので、今ここで出た意見を聞いて賛成・反対を投じるのはいやである。
伊藤	東北	この議題については学内でも議論したが、その時は大学院生の出場に関して構わないと思うか、それともいやだと思うか」という観点であったので、大学院生の加盟によって、学連の組織自体が変わることや多くの大学院生のボランティアでインカレが成り立っていることは、おそらく多くの人が考慮していないと思う。アンケートの結果だけで採決を行うのは難しいと思う。
田中	筑波	大学1年の段階で競技を始めなかった人は圧倒的に少数である。ただ、「加盟登録4年以内」という縛りを徹底すれば、インカレ運営の人数が減ることは起こりえないと思う。
佐藤	副幹事長	学校の代表として、その判断は渉外にしてほしい。学内で言われたことだけを言うだけでなく、今話しあっていることを踏まえて判断してほしい。持ち帰って議論しても、ここでの議論を3月までに忘れる人がいると思う。
栗本	東京	もし今日採決するのであれば、「選手権の部への出場認めないが、一般の部の出場は認める」という案も、第3の案として考えてほしい。
		<b>【岩手大大学院生のインカレ出場・加盟登録について】</b>
佐々木	岩手	この議題の対象者が岩手大にいる。今回のインカレロングには出場できるのかどうか聞いたところ、「今回の総会で規約改正が承認されたものとして学連登録を行って(参加して)よい」と言われたので、今回のインカレロングには一般の部に参加している。
大西	技術	加盟登録をした方は現在大学院生なのか。
佐々木	岩手	その通りである。なお、対象者ではないという理由でセレクションにはオープン参加した。
大西	技術	私の知る限り、大学院生が加盟登録をしているということは聞いたことがない。非常に残酷なことを言っているかもしれないが、過去に例がないことを、何の決定もないまま誰かがOKをして明日のインカレロングに出場しようとしていることは大問題だと思うが、大丈夫だろうか。
佐藤	副幹事長	それでは、先にそのことについて結論を出したい。岩手大学の大学院生が明日のインカレロング・一般の部に出場することについて、何か意見はないだろうか。
栗本	東京	東京大には、大学3年から競技を始め、本来ならば学連登録3年目となった人がいる。その人には、「加盟登録やインカレの出場はできない」と伝えてあり、忙しいのでインカレに実際に来れたかどうかはわからないが、少なくともセレクションに出るくらいの意欲はあると思う。もし一般の部に出場ができる立場なら、加盟登録を行ってここにきていると思うので、その人のことを考えるとあまり筋が通らない話だと思う。

片田	新潟	それに関して、インカレ実施規則の「参加規定」(活動報告書290ページに掲載)を見ると、今見た限り、選手権出場者については記述があるが、一般の部については特に書かれていない。加盟登録ができないのに行っただというのは問題だと思うが、一般の部の出場については、規定がないので大丈夫なのではないだろうか。
大西	技術	加盟員は併設大会には出られない。そのような大学院生は過去にもたくさんいたが、加盟登録はできなかったの、本来は出場を見送るべきだ。来年度、加盟登録ができるようになってから、出場するべきだと思う。
木村	理事	それについては、インカレロングの要項2に規定がある。
佐藤	副幹事長	本人には非はないが、ここまで来て走らせないというのは心苦しい気もする。
山川	副会長	(出場ができなかった場合でも)参考記録とすることはできる。
糸井川	関西	急に明らかになったことで慈悲の気持ちが雰囲気としてあるが、組織としては、加盟規約とインカレ実施規約に基づいて動くべきであり、温情などの気持ちを度外視して考えるべきだと思う。
大西	技術	温情とするならば、例えば出場予定のクラスをそのまま走らせることができるだろう。
木村	理事	運営側からすると、準備ができていますので、今から変更することはなるべく避けてほしい。参考記録とするのが一番簡単である。実行委員会として記録は出すので、その取扱いを皆さんで決めてほしい。
山川	副会長	(もし参考記録とすることが)総会で決まった場合は、その指示に従う。 「岩手大・大学院生の記録を参考記録とすべきか」 →賛成多数(賛成26)により、参考記録として取り扱われることとなった。
佐藤	副幹事長	(大学院生の加盟登録について)何か相談・連絡は来ていなかっただろうか。
大川	北東	加盟登録は事務局に行ってもらっている。
佐藤	副幹事長	加盟員のデータを送ってしまえば、そのまま登録されてしまうのだから。
野本	会計監査	今のシステムだと、架空の人間でも登録ができてしまう。
佐藤	副幹事長	それについて見直した方がよいだろう。
新粥	事務局	データには学連登録年数のほかに、生年月日が記載されているが、浪人や留年があるので見分けはつかない。
大西	技術	事務局には話が来なかったのだろうか。
新粥	事務局	6月の臨時総会の時に、岩手大の大学院生については認めてもよいという話を聞いていたので、北東学連から登録者名簿が届いたときは何のチェックもせずに、該当者を含めて全員登録した。
佐藤	副幹事長	登録年数と名前、生年月日などに加えて、何か記入欄を追加した方がよい。
糸井川	関西	正規学生であるかどうかや、学部・学科などが必要だろう。何かしらの対策を練る必要がある。
佐藤	副幹事長	ただ、それらの情報を確認するのは大変だろう。
新粥	事務局	今年度は住所などの新たな情報が集まっていて、負担が増加している。
田中	筑波	それらについては、各大学の渉外が規約などを理して、責任を持って確認すれば問題ないと思う。
佐藤	副幹事長	今回の件は、規約をしっかり理解せず、「通るだろう」という認識だったことが要因だと思う。
平野	事業部	規約にしっかり則って加盟登録をしてほしい。各学連幹事長が各地区学連に持ち帰って、見直しをしてほしい。引き継ぎの際に伝えてもらえるとういうことは減ると思う。
大久保	会計	岩手大学の大学院生については、ルールに則って、加盟登録を取り消し、インカレミドル・リレーには併設大会に出場してもらうことになるのだろうか。
佐藤	副幹事長	加盟登録の費用2000円も北東学連へ返金すべきだろうか。
新粥	事務局	先ほどの議決があるので、そうなるだろう。謝罪の言葉も送らないといけない。
河合	会長	JOAへの競技者登録はどうすべきか。日本学連加盟員については、無料でやっている。
木村	理事	(この件については)JOA側では想定していない話だと思う。
佐藤	副幹事長	私はJOA理事もしているが、まず学生の意思(が重要)である。お金の話はその後である。
		それでは、岩手大学の大学院生の方の加盟登録を取り消す方向で行きたいと思うが、意見はないだろうか。 「岩手大・大学院生の加盟登録を取り消すべきか」 →賛成多数(賛成28)により、加盟登録が取り消された。
		<b>【加盟登録の対象について】</b>
佐藤	副幹事長	専攻科学生、聴講生、研究生についても(加盟登録を)認めていたら、大変だろうか。
片田	新潟	そのあたりについて調べてみた。専攻科学生とは、例えるならば、高専の「大学院生」のような学生である。
高橋	広報部	高専に5年通って卒業した後、就職や大学への編入学をせずに、高専の専攻科に通う学生のことである。
木村	理事	息子が高専だったのでよく知っているが、高専の専攻科には大学3年生・4年生相当の学生が通っている。
糸井川	関西	今のシステムでは、高専卒業後も引き続き専攻科に通う人は学連には2年間しか登録できない。
片田	新潟	また、聴講生とは、大学の特定の授業を受けにくる人のことである。研究生には、大学院へ浪人して受験しようとしている人などがいる。
木村	理事	研究生の中には、留学生のような人がいる。スウェーデンから留学しているような人もいますので、その人を加盟登録したら、誰も勝てない。
片田	新潟	大学院生の加盟登録を認めるのなら、専攻科学生についても認めるべきだと思う。
佐藤	副幹事長	聴講生・研究生については、別の議論になってくると思う。

平野 佐藤 平野	事業部 副幹事長 事業部	この議題の承認を今回の総会で得られないと来年度の加盟登録に間に合わないだろうか。 その必要はないと思う。 この議題の結論を今日まとめるのは無理だと思う。各渉外の立場からすれば部員全員で話し合いたいことだろうし、11月に開かれる臨時幹事会でインカレプリントについて話し合った後、おそらく臨時総会を開くことになると思うので、そこで一緒に話し合えばいいと思う。この場では、今まで話し合ったことを整理して、次の議題に進むのがよいだろう。
佐藤	副幹事長	そのようにしたい。今日話し合ってみて各自の意見が変わったと思うので、臨時総会までにもう一度議論してきてほしい。  ○話し合ってほしいこと ・加盟登録の対象をどこ(大学院生・専攻科学生・聴講生・研究生)まで含めるべきか。 ・もし大学院生の加盟登録を認める場合、大学生とは分けるべきなのか。また「大学院生のインカレ出場は一般クラスのみ認める」という制限を設けるべきか。
河合 佐藤	会長 副幹事長	規約改正の面から言うと、加盟員に大学院生などを含めるかどうかという話なので、その点を踏まえて議論してきてほしい。 大学院生の加盟登録が認められると、インカレの運営へ回る人数が減る可能性がある。運営側はただでさえ人数がぎりぎりである。
河合	会長	大学院学生にも前期課程と後期課程があるので、「(大学院生の中でも)加盟員資格をどこまで認めるか」というのがみそとなる。
佐東	千葉	今規約にはないが、加盟登録5年目・6年目の学生も一般の部への参加を認めるかどうかについても、考えてきた方がよいと思う。
山川	副会長	(この議題について)春インカレでのメダル争いに絡むような問題を抱えている大学はないのだろうか。純粋に組織論として話し合いができる環境になっているのだろうか。 →特に意見は出されなかった。 →ここで出された意見を各大学に持ち帰り、次回総会で改めて議論することとなった。
		<b>6.理事会報告</b>
		木村・山川より、理事の死去に伴うインカレの開催に関する問題と、インカレロングのシード選手と裁定委員の決定について報告があった。前者については、今後のインカレ開催に関わる問題であるため、迅速な対応が求められている。
木村	理事	春インカレを担当していた立川理事が亡くなった。日本学連よりお花を出し、複数の関係者が葬儀に参列した。
山川	副会長	理事会では、ほとんどメール上でのやり取りとなっているが、「立川理事の後任について」と、インカレロングの「シード選手の選考」、「制定委員の決定」を行った。 立川理事は、学連やインカレを運営する上で最先端の理事だったので、かなりの痛手である。筑波大生時代からの「運営のエリート」であるので、後任を見つけるのが大変である。現在は、立川理事の担当の前任者をアドバイザーのような形として返り咲いてもらい、今年度新たに就任した2人の理事を見習いとして登用し、3人体制で今年度の春インカレには臨んでいく。ただ、来年度のインカレや継続的なインカレ開催に目を向けると、現実的な問題を抱えている。
		<b>7.技術委員会報告</b>
		大西より、「学連合宿」、「WUOC2014」、「海外遠征補助について」、「インカレロングのシード選手の推薦」について、それぞれ報告があった。
大西	技術	資料を見てほしい。簡単な報告を行いたい。 1.学連合宿の開催 第1回 7月12-13(八ヶ岳。ユニバー合宿とコラボ) 第2回 8月23-24日(富士。インカレロング対策。) 2.WUOC2014 8月の12-16日にチェコのolomoucにてユニバーシアードの世界選手権が行われました。日本からは男子6名、女子6名が参加しました。 結果についてはユニバーブログを参照してください。 次回は2年後にハンガリーのMISKOLCにて開催予定です。 ぜひ挑戦する資格を持っている人は今から目指してみてください。 3.海外遠征補助について リテラメッド社がスポンサーとなって行われている。海外遠征補助事業を学連の技術委員会にて対象者の選考を行いました。 今年度は早稲田大学の尾崎選手と立教大学の宮川選手が選ばれました。 この遠征補助制度は過去からいろんな形で行われてきましたが、今年度は交通費や参加費など遠征にかかる費用すべての補助かつ対象者を前回の1名から2名に増やすということに決まりました。学生で海外遠征に行き、さらにステップアップを目指していきたいという人はぜひこの補助制度を活用してってください。



	<p>4.インカレロングのシード選手の推薦      今回行われるインカレロングのシード選手の候補者を選び、理事会のほうに推薦いたしました。</p> <p>【男子】      杉村俊輔 東北大学4      宮西優太郎 東北大学3      尾崎弘和 早稲田大学4      深田 恒 東京大学3      福井悠太 東京大学3      松下睦生 京都大学4</p> <p>【女子】      五味あずさ 金沢大学3      稲毛日菜子 お茶の水女子大学4      伊東瑠実子 東京大学3      宮川 早穂 立教大学3      守屋舞香 相山女学園大学3</p> <p>がシード選手として選出されました。</p>
	<p><b>8.各部局報告</b></p> <p>●会計:2014年度会計中間報告、JOA入会金・年会費支出、日本学連活動報告書作成費支出      ●事業部:第1回・第2回幹事会会場・宿泊場所の手配、インカレミドル・リレーについてのアンケート結果の公表、インカレスプリントアンケート集計      ●広報部:いぶき作成、日本学連渉外メーリス登録、ホームページ・Twitter更新      ●事務局:学連加盟員の加盟登録・JOA競技者登録、渉外・幹事名簿作成、賛助会員(メール)・後援申請受付      ●普及部:賛助会員名簿作成、インカレロング観戦ガイド作成      ●渉外部:矢板・日光での各練習会についての回覧書送付      ●活動報告書作成委員会:活動報告書作成</p>
	<p><b>9.地区学連報告</b></p> <p>●北東学連:北東学連合同合宿(8月16日～19日)、北東インカレ兼ロングセレ(8月17日)、東北大会(9月7日)      ●北信越学連:交流会(7月19日・20日)、第2回北信越学連総会(7月19日)、北信越学連合同合宿(9月13日～15日)、スプリントセレクション・第3回学連総会(9月13日)      ●関東学連:関東学連ロングセレ(6月15日)、関東学連臨時総会(7月5日、10月11日)、インカレスプリントセレ(8月30日・サンスーシ運営)、スプリント推薦会(9月3日)、新人戦(9月17日)      ●東海学連:新歓フェア(5月24日)、東海インカレ兼ロングセレ(6月29日)、東海学連复合宿(8月30日～31日)、東海学連総会(夏合宿で開催)、東海学連冬合宿(12月27日～29日・予定)、ミドルセレ(12月28日・予定)      ●関西学連:関西学連新歓・第1回関西学連総会(4月20日)、学連新歓合宿(5月17～18日)、関西インカレ兼ロングセレ・第2回学連総会(6月15日)、学連練習会(7月1日・大阪OLC練習会と併催)、近畿OL連絡会(7月19日・関西学連主催)、ミドルセレ規約改正、第2回定例戦・新人戦(10月26日・予定)、京大京女大会(渉外上の問題により延期※)、ミドルセレ(11月30日)      ※総会終了後、開催日を2015年3月21日とすることが発表された。</p>
戸上	<p>【関東学連】      日本学連総会に先立ち行われた、関東学連総会では、関東学連ミドルセレを北東学連と共催で不動の滝(南)にて行うことになった。次回総会では、加盟員増加に伴う、ミドルセレでのスタート形式の変更について話し合っていく。</p>
下江	<p>【中九四地区】      私がいる4年間で、これからも活動が続いていくように、出来る限りの努力をしていきたい。</p>
山川	<p>【インカレスプリントについて】      昨年度第2回幹事会からずっと議題に上がってきた「インカレスプリント」だが、今回の総会では議題とするような話題は何もなかった。しかし、6月の総会では、「一度ちゃんとしたスプリントを行って見せないと、次の議論ができない」という話だったので、かなり気合を入れて準備をした。それでも、完全に構成ではなかったため、明日実行委員長からヒヤリングを行うことになっている。ただ、今回はインカレスプリントを継続して行うための試行大会であり、その成果をたたき台として、臨時幹事会では正式な開催に向けて議論していきたい。ちゃんとしたレポートを出すし、山上・実行委員長からも出されるだろう。</p>
宇井	<p>スプリントについてのアンケートは後日とり、そこでの意見を基に、臨時幹事会でインカレスプリントの是非について話し合いたい。</p>
山川	<p>世界のスプリントと比べると、日本のスプリントはあまりにも制約が多く、突き詰めば、出来ないことだらけである。今回のコースでは、ただ走るだけの単調なレッグがあるが、「緊張のあるレッグが連続するのがスプリント」とする世界からはダメだしされている。それは日本では無理だが、それでも私はスプリントを行いたい。みんなに見られている中で走る環境を第一の価値としたい。</p>
	<p><b>10.次回総会について</b></p> <p>【臨時総会】      ●開催日:12月8日(全日本リレー前日)      ●開催地:岐阜県中津川市(全日本リレー終了後、会場で開催予定)</p>

	※11月に行われる臨時幹事会で必要性が認められた場合に開催 <b>【第62回総会】</b> ●開催日:3月(春インカレ終了後) ●開催地:未定(追って連絡)
	総会終了:18時46分

**【備考欄】**

文中における「活動報告書」とは、「日本学生オリエンテーリング連盟 活動報告書 Ver.16」(2014年10月発行・今回の総会で各加盟校に配布)である。